

校長や教頭などの参加による指導

1 説話の時間を設ける方法

授業の最終段階等に、校長や教頭が主題にかかわる説話をする方法です。命の大切さなどの主題を取り扱う際など、感動資料と組み合わせて最後に説話で余韻を持って終わるような構成にすると効果的です。

ただし、説話をする校長や教頭は最初から授業に参加し静かに児童生徒を見守るようにすることがポイントです。説話の時だけ突然教室に来るのは不自然ですし、そこまでの授業の流れも把握できません。ぜひ、実践してみてください。



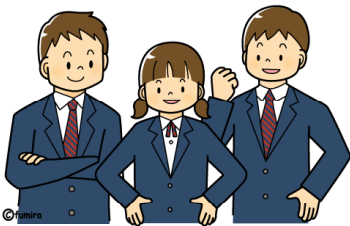
最初から授業に参加するのがポイントです！

2 体験談をインタビュー形式で

校長や教頭が主題にかかわる内容の自分自身の経験や考え等を学級担任の質問に答える、インタビュー形式で授業に参加する形です。様々な主題で、校長や教頭の子どもの頃の体験談を児童生徒に語りかけることで、それらの主題や価値についてより深く考えることが期待できます。ポイントは、やはり授業の最初から参加し、児童生徒を静かに見守るようにすることです。



3 心に響く集会（朝会）講話



全校集会（朝会）で、年間指導計画でその時期に取り扱っている主題と関連させた心に響く講話を行う方法です。

その講話の内容を学校だよりで紹介し、それを道徳の時間に資料として取り扱うことも考えられます。

また、その学校だよりを地域全体に配付するか回覧するなどして保護者や地域に情報を発信する方法も考えられます。